

わくわく

7・8月号

本だな

1 2 3 年



E 『 のどぼとけさん 』

えほん

尾崎美紀／作 ささきみお／絵 ひさかたチャイルド  
ひるねちゅうのじいちゃんのおどのおくに、ちっちゃな「のどぼとけさん」がいるのを見つけました。ひとのやくにたつことをたくさんすると出てくる、ほとけさまなんだって。ぼくは、いっしょにそとへでかけることにしました。

E 『 ツリーハウスがほしいなら 』

えほん

カーター・ヒギンズ／文 エミリー・ヒューズ／絵

千葉茂樹／訳 ブロンズ新社

木の上のひみつきちで、どんなことができるかな。えだにロープをむすべば、ブランコができます。小さなとしょかんをつくって本をよむのも、たのしそうです。おなかですいたら、木のみきから出るシロップをなめてみよう！



K913 『 まかせて！<sup>かあ</sup>母ちゃん！！ 』

ものがたり

くすのきしげのり／作 小泉るみ子／絵 文溪堂  
アキヨシは、大けがで入<sup>にゅう</sup>いんした大工<sup>だいく</sup>の父ちゃんをげんきにするため、母ちゃん<sup>いぬこや</sup>とこっそり犬小屋をつくることにしました。母ちゃんといっしょにのこぎりで木をきってみました。なかなかまっすぐきれません。やっぱりふたりだけじゃむりなのかな。

K473 『 もりのほうせき ねんきん 』

ちしきのほん

新井文彦／写真・文 ポプラ社

ねんきんは、ねばねばのからだでうごきまわり、つぶつぶになったり、あしがはえたり、形がどんどんかわるふしぎないきものです。黒くてぴかぴか<sup>ひか</sup>光っているものもあれば、赤くてとげとげしているものもあって、ほうせきのようにきれいです。



わ く わ く

7・8月号

本 だ な

4 5 6 年



物語

K913 『 さよなら、おばけ<sup>だんち</sup>団地 』

藤重ヒカル／作 浜野史子／画 福音館書店

結衣<sup>ゆい</sup>は、おばけが出るといううわさがある、古い団地<sup>おく</sup>の奥の広場へ行ってみました。今はだれもいないはずなのに、小さな子どもたちが集まって泣<sup>な</sup>いています。チョウがバスにひかれて死<sup>し</sup>んだと言うのです。そこで、いっしょに花びらをあつめてチョウをうめることにしました。ところが、つむじ風がふいたとたん、子どもたちは消えてしまいます。

K913 『 ビワイチ！ 自転車<sup>びわこ</sup>で琵琶湖一周 』

物語

横山充男／作 よこやまようへい／絵 文研出版

自転車で琵琶湖を1周する、ビワイチ<sup>とうま</sup>。斗馬<sup>いっ</sup>は友だちの一太<sup>いち</sup>をさそって、ちょうせんすることにしました。1泊<sup>ぱく</sup>2日<sup>にっ</sup>で200kmをめぐる。小学生の体力では、むずかしい日程です。

しっかり計画を立て、練習を重ねて、いざ出発。でも、とちゅうで足が痛くなり、おなかがへってきました。さらに、斗馬の自転車がこしょうしてしまいます。



ちしきの本

K641 『 しあわせの牛乳<sup>ぎゅうにゅう</sup> 牛もしあわせ！おれもしあわせ！ 』

佐藤慧／著 安田菜津紀／写真 ポプラ社

多くの牧場では、牛たちはせまい小屋でかわれ、人工的なえさを食べています。ところが岩手県のなかほら牧場の牛たちは、広い山の中で自由に草を食べ、好きな場所でねて、ストレスなく元気にすごしています。牛のふんは、えさとなる草が育つためのひりょうに変わります。ここの牛乳を飲んだ人は「こんなにおいしい牛乳は他にない！」と言います。

図書館のまどぐちには、くみだてると本になる「わくわく本だな」もあるよ。

ホームページもみてね！〈編集・発行〉富山市立図書館 富山市西町5番1号 電話 076-461-3200